

学びの多様化学校の今後の方向性について

1 学びの多様化学校の概要と想定、本市における設置コンセプト等

(1) 学校の概要

学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）

特別の教育課程を編成して教育を実施することができる学校。通常の学校より授業時間が少なかったり、体験活動や探究的な学習が充実していたり、弾力的な教育課程の下、興味や関心に応じた柔軟な学びを行うことができる学校。

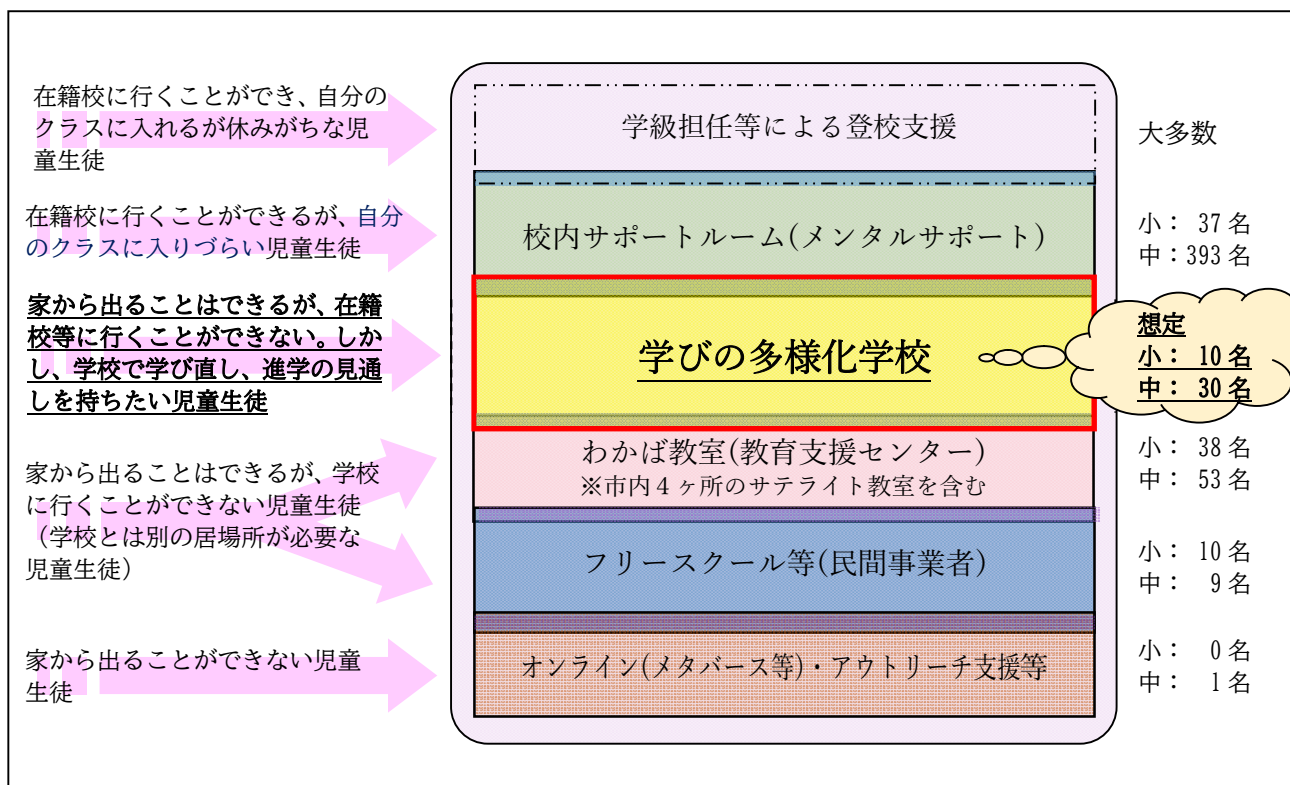
※令和5年8月31日、文部科学省が「不登校特例校」の名称を「学びの多様化学校」に改称

(2) 想定

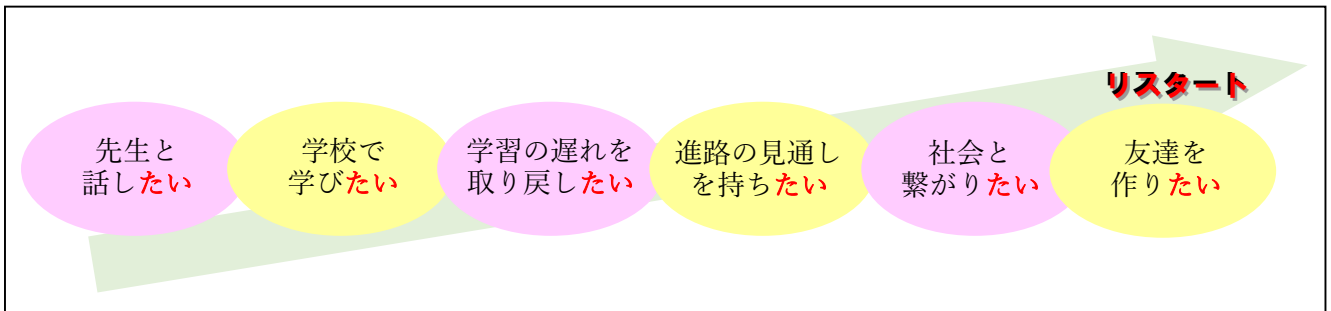
① 想定される対象者

- ・不登校により学びの遅れを取り戻したい生徒【多数】
- ・全日制高校の進学を見据えて、学び直しをしたい生徒【多数】
- ・在籍校や通常の学校（校区外利用）とは違ったところで学び直したい生徒
- ・在籍校等とは違った新たな友人関係を求めたい生徒
- ・長期欠席により在籍校に戻りにくくなった生徒
- ・通常の学校のカリキュラムでは物足りないと感じており別の学校で学びたい生徒
- ・進学した私立中学校で不登校となった生徒（地元中学校への転校に抵抗がある生徒） など

② 今後の本市不登校対策の体制図（案）



(3) 本市における学びの多様化学校の設置コンセプト 子どもたちの期待に応える



本市の中学校において、前年度から不登校の状態が継続する大きな理由の一つは、学業の不振がある。

中学生を対象に学びの多様化学校を設置することで、少人数でじっくりと時間をかけ学び直しができる場を提供することができる。

また、不登校生徒の進学先は通信制高校が多いが、学びの多様化学校では、集団生活に慣れ、定期テストを受け、他の中学生と遜色ない評価を得ることによって、通信制高校だけではなく、全日制高校への進学という選択肢が広がり、生徒の将来を見据えた教育を実現することができる。

これは、不登校生徒の居場所づくりのために取り組んでいる本市の不登校対策が、未だ踏み入れられていない部分であり、「学びのリスタート」の機会を開拓していく価値は十分にあると考える。

2 まとめ（学びの多様化学校の設置場所の考え方）

本市の中学校における不登校課題を解消するために、「学び直し」の場を提供することが重要と考える。

そのために、少人数での学級編成、柔軟なカリキュラム編成が可能な学びの多様化学校を設置する価値は十分にあると考える。

設置場所としては、生徒が通いやすく、安心して学べる場所での設置が望まれる。

また、不登校支援を中心となって担ってきた教育相談センターと連携しやすい場所かつひとつの施設内で拡張可能な面積を確保できる場所が望ましい。

教育相談センターやわかば教室（教育支援センター）との連携が可能なエリアに設置することで、生徒にとっての支援者を増やすことができる。

今後も、不登校児童生徒は増加すると予測されるが、人員確保の観点から、施設数を増やすより、最小限の施設数で、かつ施設内で部屋数や部屋の大きさの調整が柔軟に対応できることが望ましい。

これまでの本市の取組を継承しつつ、特に「学びのリスタート」「進学先の選択肢の拡大」というコンセプトに基づいた学びの多様化学校の設立が、本市の不登校課題を改善していく一つの事業となりうると考える。